

東海北陸厚生局長 殿

国立大学法人  
三重大学医学部附属病院長  
竹 田 寛

国立大学法人三重大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
3. 高度の医療に関する研修の実績 研修医の人数 38人 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	201 人	159 人	346.3 人	看 護 補 助 者	64 人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0 人
歯 科 医 師	8 人	12 人	19.6 人	理 学 療 法 士	8 人	臨 床 検 査 技 師	48 人
薬 剤 師	22 人	17 人	39.0 人	作 業 療 法 士	2 人	衛 生 検 査 技 師	1 人
保 健 師	0 人	0 人	0.0 人	視 能 訓 練 士	4 人	そ の 他	2 人
助 産 師	19 人	1 人	19.3 人	義 肢 装 具 士	0 人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0 人
看 護 師	370 人	103 人	435.9 人	臨 床 工 学 士	16 人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	4 人
准 看 護 師	2 人	10 人	8.0 人	栄 養 士	0 人	そ の 他 の 技 術 員	25 人
歯 科 衛 生 士	0 人	5 人	4.0 人	歯 科 技 工 士	2 人	事 務 職 員	179 人
管理栄養士	5 人	4 人	8.0 人	診 療 放 射 線 技 師	31 人	そ の 他 の 職 員	36 人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たりの平均入院患者数	540.0 人	12.8 人	552.8 人
1日当たりの平均外来患者数	1,061.2 人	88.5 人	1,149.7 人
1日当たりの平均調剤数			560.0 剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インプラント義歯	14人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	6人
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人
Real Time PCR法を用いたEBウイルス感染症の迅速診断	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	0人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	12人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	0人
YP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法□	0人
先天性難聴の遺伝子診断	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

先進医療の種類	取扱患者数
早期胃癌に対する服腔鏡下センチネルリンパ検索	6人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	124人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	48人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	23人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	副腎腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ラジオ波通電用手電極をCT画像ガイド下にて経皮的に腫瘍に穿刺し、腫瘍に対してラジオ波発生装置による凝固療法			
医療技術名	舌下免疫療法	取扱患者数	85人
当該医療技術の概要 スギ花粉症の原因であるスギ花粉のエキスを食パンのかけらにたらし、舌の下に2～3分程度含むことにより、エキスを継続的に体内に入れて体を慣らし、アレルギー反応を減らす			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	74人	・膿疱性乾癬	9人
・多発性硬化症	48人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・重症筋無力症	103人	・原発性胆汁性肝硬変	107人
・全身性エリテマトーデス	434人	・重症急性膵炎	12人
・スモン	5人	・特発性大腿骨頭壊死症	1人
・再生不良性貧血	58人	・混合性結合組織病	35人
・サルコイドーシス	127人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	45人	・特発性間質性肺炎	12人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	289人	・網膜色素変性症	37人
・特発性血小板減少性紫斑病	100人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	26人	・肺動脈性肺高血圧症	21人
・潰瘍性大腸炎	262人	・神経線維腫症	14人
・大動脈炎症候群	22人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	50人
・天疱瘡	63人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	1人
・脊髄小脳変性症	48人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	2人
・クローン病	127人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	12人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	9人
・悪性関節リウマチ	9人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患	434人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	25人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	17人
・後縦靭帯骨化症	91人	・肥大型心筋症	82人
・ハンチントン病	4人	・拘束型心筋症	2人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	31人	・ミトコンドリア病	10人
・ウェゲナー肉芽腫症	5人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	40人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2人
・多系統萎縮症	0人	・黄色靭帯骨化症	3人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4人	・間脳下垂体機能障害	11人
(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。		合計	2931人

(様式第10)

### 高度の医療技術の開発及び評価の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 腹腔鏡下小切開副腎摘出術	・
・ 腹腔鏡下小切開腎部分切除術	・
・ 腹腔鏡下小切開腎摘出術	・
・ 腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術	・
・ 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・
・ 痔核手術(脱肛を含む)(PPH)	・
・ う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には業務報告を行う3年前の4月以降に健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供したのものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の 状況	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。
	<input type="checkbox"/> 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査 部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に 1回程度(3種類の検討会) 1カ月に 2回程度(1種類の検討会) 1カ月に 1回程度(2種類の検討会)
剖 検 の 状 況	剖検症例数                      14 例    剖検率                                  4.4 %

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	新規がん遠隔転移モデルゼブラフィッシュを用いたハイスループットin vivo治療標的分子探索システムの開発研究	島田 康人	医学部附属病院	13,858,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
2	筋チャンネル病および関連疾患の診断・治療指針作成および新規治療法開発に向けた基盤整備のための研究	佐々木 良元	医学部附属病院	1,500,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
3	臍帯血を用いる造血幹細胞移植技術の高度化と安全性確保に関する研究	東 英一	医学部附属病院	1,000,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
4	小児がんに対する標準治療・診断確立のための研究	出口 隆生	医学部附属病院	1,000,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
5	化学物質の胎内ばく露による情動・認知行動に対する影響の評価方法に関する研究	成田 正明	大学院医学系研究科	32,110,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
6	牟婁病の実態の把握と治療指針作成	小久保 康昌	大学院医学系研究科	18,000,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
7	乳幼児突然死症候群(SIDS)における病態解明と臨床対応および予防法開発とその普及啓発に関する研究	成田 正明	大学院医学系研究科	820,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
8	神経変性疾患に関する調査研究	小久保 康昌	大学院医学系研究科	1,200,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
9	特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学術的研究	須藤 啓広	大学院医学系研究科	1,200,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
10	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	松峯 昭彦	大学院医学系研究科	300,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
11	血液凝固異常症に関する調査研究	和田 英夫	大学院医学系研究科	2,000,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
12	牟婁病の実態の把握と治療指針作成	広川 佳史	大学院医学系研究科	1,000,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
13	リアルタイムモニター花粉数の情報のあり方の研究と舌下ペプチド・アジュバンド療法の臨床研究	湯田 厚司	大学院医学系研究科	1,500,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
14	重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究	成田 有吾	大学院医学系研究科	3,000,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
15	難治性脾疾患に関する調査研究	伊佐地 秀司	大学院医学系研究科	1,000,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
16	遺伝性脳小血管病の病態機序の解明と治療法の開発	富本 秀和	大学院医学系研究科	1,000,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
17	早期前立腺がんにおける根治的術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	杉村 芳樹	大学院医学系研究科	200,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
18	高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	杉村 芳樹	大学院医学系研究科	250,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
19	がん化学予防剤の開発に関する基礎及び臨床研究	塚本 徹哉	大学院医学系研究科	2,500,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
20	膝痛・腰痛・骨折に関する高齢者介護予防のための地域代表性を有する大規模住民コホート追跡調査	須藤 啓広	大学院医学系研究科	4,500,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
21	バーチャルスライドシステムを用いたがんの病理診断支援のあり方に関する研究	白石 泰三	大学院医学系研究科	1,100,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
22	労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援・介入のあり方に関する研究	岡田 元宏	大学院医学系研究科	850,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
23	労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援・介入のあり方に関する研究	浦川 加代子	大学院医学系研究科	350,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
24	労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援・介入のあり方に関する研究	竹村 洋典	大学院医学系研究科	850,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
25	小児急性骨髄性白血病(AML)に対する標準的治療法の確立	岩本 彰太郎	大学院医学系研究科	1,000,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
26	マリア原虫人工染色体を用いた革新的耐性遺伝子同定法の確立と応用	岩永 史朗	大学院医学系研究科	5,200,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
27	環境ストレスによる心血管系障害に対する予防システムの確立	市原 佐保子	大学院地域イノベーション	1,263,600 円	✓ 補委 科学研究費補助金
28	機械的脳塞栓・血栓除去用機材の開発と手技の確立に関する研究	朝倉 文夫	医学部附属病院	650,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
29	腎特異的酸化ストレスによる尿細管薬物トランスポータの発現・機能変動とその役割	奥田 真弘	医学部附属病院	780,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
30	スギ花粉アレルギーに対する抗原特異的抑制性T細胞の誘導の検討	山中 恵一	医学部附属病院	260,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
31	肝疾患特異ペプチドの糖鎖プロファイリングによる病態標的分子の探索	杉本 和史	医学部附属病院	1,300,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
32	ヒトリンパ球分化機構の解明と移植療法への応用	大石 晃嗣	医学部附属病院	1,430,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
33	実験的肺高血圧の発症におけるIL6-Th17/Treg系の役割	三谷 義英	医学部附属病院	1,560,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金
34	統合失調症における感覚情報処理異常の解明—ミスマッチ反応を用いて	元村 英史	医学部附属病院	1,430,000 円	✓ 補委 科学研究費補助金

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
35	拡散テンソル画像を用いた非定型精神病における視床下部へのフィードバック障害の解析	城山 隆	医学部附属病院	650,000 円	科学研究費補助金
36	大腸癌肺転移に対する経皮的ラジオ波凝固療法と肺切除の無作為化臨床比較試験	山門 亨一郎	医学部附属病院	780,000 円	科学研究費補助金
37	化学放射線療法後の直腸癌遠隔転移誘導メカニズムの解明	井上 靖浩	医学部附属病院	910,000 円	科学研究費補助金
38	肺虚血再灌流障害の発症機序—TLR4を介した細胞内シグナル伝達経路の解明—	島本 亮	医学部附属病院	1,300,000 円	科学研究費補助金
39	無症候性肺動脈性肺高血圧症の進展予測と早期治療効果に関する検討	山田 典一	医学部附属病院	2,990,000 円	科学研究費補助金
40	siRNAによる気道リモデリング制御方法の検討及び創薬の可能性の検討	小林 哲	医学部附属病院	1,950,000 円	科学研究費補助金
41	320列CTを用いた冠動脈プラークボリュームと心筋血流予備能の総合的診断法の確立	北川 覚也	医学部附属病院	2,080,000 円	科学研究費補助金
42	ラジオ波凝固による骨粗鬆症モデルへのビスフォスフォネート製剤の椎体内注入	中塚 豊真	医学部附属病院	2,860,000 円	科学研究費補助金
43	直腸癌転移再発制御を目指した癌幹細胞の放射線誘導性上皮間葉移行の分子生物学的研究	田中 光司	医学部附属病院	3,510,000 円	科学研究費補助金
44	くも膜下出血後脳損傷の病態解明と新規治療法の開発	鈴木 秀謙	医学部附属病院	1,690,000 円	科学研究費補助金
45	テネシシンCの軟骨修復促進作用における分子機構の解明とその治療への応用	長谷川 正裕	医学部附属病院	1,560,000 円	科学研究費補助金
46	炎症の観点からみた肥満妊娠と次世代へのエピジェネティクス制御に関する検討	杉山 隆	医学部附属病院	2,470,000 円	科学研究費補助金
47	ヒト嗅細胞における嗅覚情報伝達機構の解明	小林 正佳	医学部附属病院	1,300,000 円	科学研究費補助金
48	高齢うつ病の病態生理の解明 (EEG/ERP) の双極子解析とMRIによる統括的研究	松本 卓也	医学部附属病院	520,000 円	科学研究費補助金
49	血中腫瘍由来ペプチドの網羅的解析による新規バイオマーカーの探索	山本 憲彦	医学部附属病院	1,170,000 円	科学研究費補助金
50	肺高血圧における神経堤由来細胞の関与とエンドセリン受容体拮抗薬の新しい作用機序	大橋 啓之	医学部附属病院	1,560,000 円	科学研究費補助金
51	トラスツマブ投与患者における細胞性免疫応答の誘導と抗腫瘍効果における役割の検討	齋藤 佳菜子	医学部附属病院	1,560,000 円	科学研究費補助金
52	肝移植医療における脂肪肝過小グラフトの限界と挑戦	水野 修吾	医学部附属病院	1,170,000 円	科学研究費補助金
53	クローン病術後感染制御における術後早期白血球除去療法の有用性	吉山 繁幸	医学部附属病院	780,000 円	科学研究費補助金
54	晩産化が母児へ与える影響—酸化ストレスによるエピジェネティクス制御の視点から	梅川 孝	医学部附属病院	1,560,000 円	科学研究費補助金
55	DIF・PDE1シグナルによるヒト悪性黒色腫に対するsiRNA療法	清水 香澄	医学部附属病院	1,950,000 円	科学研究費補助金
56	シスプラチン毒性代謝物の尿細管輸送特性に基づく腎障害予防法の基盤構築	岩本 卓也	医学部附属病院	3,250,000 円	科学研究費補助金
57	血液培養陰性の血管内感染症に対する細菌遺伝子診断の有用性の検討	田辺 正樹	医学部附属病院	2,080,000 円	科学研究費補助金
58	椎間板バイオマテリアルの開発—椎間板変性に対する革新的治療戦略に向けて—	明田 浩司	医学部附属病院	2,600,000 円	科学研究費補助金
59	休止期にある急性リンパ性白血病幹細胞に対する有効な治療開発	木平 健太郎	医学部附属病院	910,000 円	科学研究費補助金
60	脂肪肝による肝移植への挑戦—虚血再灌流障害から移植を炎症と凝固を礎として	岸和田 昌之	医学部附属病院	1,040,000 円	科学研究費補助金
61	頭頸部血管病変に対する冷却バルーン臨床応用及び頭頸部血管専用冷却バルーンの開発	山道 茜	医学部附属病院	2,600,000 円	科学研究費補助金
62	光線療法を用いた臍細胞の修復再生促進効果の研究	里中 東彦	医学部附属病院	1,820,000 円	科学研究費補助金
63	大腸癌患者における糞便・末梢血からのあらたな発癌・予後マーカーの確立	奥川 喜永	医学部附属病院	1,482,000 円	科学研究費補助金
64	がん患者とストレスの多い看護師への補完代替医療の応用研究	大西 和子	大学院医学系研究科	5,070,000 円	科学研究費補助金
65	強心作用に関する新しい分子機序の解明、病態との関連解析と新しい治療法への応用	伊藤 正明	大学院医学系研究科	3,120,000 円	科学研究費補助金
66	悪性腫瘍における治療選択検査と分子標的治療の開発:プリン代謝酵素欠損モデル	登 勉	大学院医学系研究科	4,940,000 円	科学研究費補助金
67	パーキンソン病における酸化ストレス誘導神経細胞死の新規解明と予防法の確立	及川 伸二	大学院医学系研究科	5,200,000 円	科学研究費補助金
68	口腔悪性腫瘍に対するPDE2関連シグナル・遺伝子治療	田川 俊郎	大学院医学系研究科	3,640,000 円	科学研究費補助金
69	繊維・粒子状物質による呼吸器の発がん性・線維原性の包括的リスク評価システムの開発	平工 雄介	大学院医学系研究科	6,110,000 円	科学研究費補助金
70	生体の恒常性維持に重要なプロテインC凝固制御系因子の分子細胞医学的研究	鈴木 宏治	大学院医学系研究科	5,590,000 円	科学研究費補助金



1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
71	2光子励起顕微鏡を用いた大腸癌化及び癌、周囲間質応答の新規確証提示	楠 正人	大学院医学系研究科	1,820,000 円	科学研究費補助金
72	生理活性を有する脳血管内治療用デバイスの開発研究	滝 和郎	大学院医学系研究科	5,200,000 円	科学研究費補助金
73	成人病胎児期起源仮説の実験的検証とその臨床応用に関する総合的研究	佐川 典正	大学院医学系研究科	3,770,000 円	科学研究費補助金
74	神経堤と中胚葉を標識できるマウス歯髄幹細胞及び胚性幹細胞を用いた硬組織再生	山崎 英俊	大学院医学系研究科	5,460,000 円	科学研究費補助金
75	感染・炎症関連発がんの分子機構の解明とがん予防	村田 真理子	大学院医学系研究科	9,490,000 円	科学研究費補助金
76	新規がん幹細胞モデルマウスの作製とMLL関連白血病発生の分子基盤	野阪 哲哉	大学院医学系研究科	6,760,000 円	科学研究費補助金
77	中枢神経系機能性疾患における病態成熟過程の解析	岡田 元宏	大学院医学系研究科	5,980,000 円	科学研究費補助金
78	パラインフルエンザ2型ウイルスV蛋白と関与する宿主因子の網羅的検索と解析	西尾 真智子	大学院医学系研究科	1,430,000 円	科学研究費補助金
79	パラミクソウイルスの膜融合における受容体結合蛋白と膜融合蛋白の相互作用の分子機構	鶴留 雅人	大学院医学系研究科	1,170,000 円	科学研究費補助金
80	MAPキナーゼによる炎症制御ネットワークの解析	緒方 正人	大学院医学系研究科	1,560,000 円	科学研究費補助金
81	比較定量化ペプチドミクスによる肝疾患病態責任分子の解析と新規バイオマーカーの探索	白木 克哉	大学院医学系研究科	1,300,000 円	科学研究費補助金
82	紀伊半島のALSとパーキンソン病複合におけるSNPs解析による発病因子の検討	小久保 康昌	大学院医学系研究科	1,430,000 円	科学研究費補助金
83	マウス慢性脳低灌流モデルに対するヒト胚性幹細胞由来血管前駆細胞移植	富本 秀和	大学院医学系研究科	650,000 円	科学研究費補助金
84	造血幹細胞由来細胞から肝星細胞への分化機序の解明:新規肝線維症治療法を目指して	榊屋 正浩	大学院医学系研究科	1,430,000 円	科学研究費補助金
85	遺伝子多型からみた生体肝移植におけるテラーメード治療	白井 正信	大学院医学系研究科	650,000 円	科学研究費補助金
86	脳動脈瘤破裂リスクを予測するための4次元CT血管造影法の開発	松島 聡	大学院医学系研究科	1,040,000 円	科学研究費補助金
87	肉腫肺転移に対する、デコリンを用いた画期的な治療戦略の確立	松峯 昭彦	大学院医学系研究科	650,000 円	科学研究費補助金
88	環境化学物質のT細胞免疫応答攪乱による炎症性腸疾患増悪と大腸発がん促進機構の解明	加藤 琢磨	大学院医学系研究科	1,820,000 円	科学研究費補助金
89	遺伝子改変マウスを用いた慢性閉塞性肺疾患発症機序の解明と新治療法の開発	田口 修	大学院医学系研究科	1,820,000 円	科学研究費補助金
90	乳癌の進展における不完全な上皮-間葉移行現象とその分子機構	吉田 利通	大学院医学系研究科	1,300,000 円	科学研究費補助金
91	血栓症における過凝固症の早期診断ならびに発症機構の解明	和田 英夫	大学院医学系研究科	1,300,000 円	科学研究費補助金
92	ストレスは覚醒剤の心臓への影響を強めるか? -遺伝子発現を指標とした病態生理解明	那谷 雅之	大学院医学系研究科	1,300,000 円	科学研究費補助金
93	心筋リモデリング時の間質細胞の動態を制御する分子機構に関する基礎的研究	吉田 恭子(今中恭子)	大学院医学系研究科	1,300,000 円	科学研究費補助金
94	ヒト疾患に近いシステムを用いた白血病発症におけるBCR-ABL1遺伝子の機能解析	片山 直之	大学院医学系研究科	1,300,000 円	科学研究費補助金
95	ポリオウイルスを用いた神経芽腫の新しい治療法の研究	豊田 秀実	大学院医学系研究科	1,170,000 円	科学研究費補助金
96	表皮を免疫調整臓器とする新規アレルギー疾患治療の開発	水谷 仁	大学院医学系研究科	1,300,000 円	科学研究費補助金
97	疾患の異種性に着目したパニック障害の病態研究	谷井 久志	大学院医学系研究科	1,430,000 円	科学研究費補助金
98	難治性癌に対するGITRL-Fc融合蛋白発現腫瘍による新規腫瘍細胞ワクチンの開発	池田 裕明	大学院医学系研究科	1,560,000 円	科学研究費補助金
99	宿主・腫瘍相乗的サイトカイン産生連鎖機構の制御による癌悪液質の回避	三木 誓雄	大学院医学系研究科	650,000 円	科学研究費補助金
100	過少グラフトを用いた生体部分肝移植への挑戦と克服	伊佐地 秀司	大学院医学系研究科	1,300,000 円	科学研究費補助金
101	肺高血圧症における凝固・炎症カスケード解析による治療標的の解明	丸山 一男	大学院医学系研究科	1,300,000 円	科学研究費補助金
102	癌間質による前立腺癌幹細胞ニッチ形成機構の解明:癌間質標的療法へ向けた基礎的研究	有馬 公伸	大学院医学系研究科	1,300,000 円	科学研究費補助金
103	頭頸部腫瘍における蛋白ワクチンによる腫瘍破壊の免疫モニタリング	影山 慎一	大学院医学系研究科	1,300,000 円	科学研究費補助金
104	温灸によるタキサン系抗がん剤副作用の「しびれ」改善効果に関する研究	辻川 真弓	大学院医学系研究科	1,170,000 円	科学研究費補助金
105	唾液中コルチゾールとクロモグラニンによる直接母乳哺育後のストレス評価	南田 智子	大学院医学系研究科	390,000 円	科学研究費補助金
106	精神障害を持つ実親と生活する思春期年代の子どもの生活状況の把握と支援に関する研究	土田 幸子	大学院医学系研究科	650,000 円	科学研究費補助金

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
107	心筋梗塞後の両室リモデリング進展における新たな修飾因子の解明	土肥 薫	大学院医学系研究科	2,860,000 円	補科学研究費補助金
108	慢性脳低還流状態における内皮細胞・血液脳関門障害の病態解明	矢田 健一郎	大学院医学系研究科	1,690,000 円	補科学研究費補助金
109	電気式離脱型頭蓋内ステントの開発研究	阪井田 博司	大学院医学系研究科	2,080,000 円	補科学研究費補助金
110	VEGF(血管内皮増殖因子)中和抗体を用いた後縦靭帯骨化症治療の開発	浅沼 由美子	大学院医学系研究科	2,860,000 円	補科学研究費補助金
111	がんの骨転移に対する物理化学的および分子生物学的治療の開発に関する研究	加藤 公	大学院医学系研究科	1,820,000 円	補科学研究費補助金
112	細胞外環境による前立腺・膀胱の発生や形態形成の制御機構	杉村 芳樹	大学院医学系研究科	2,470,000 円	補科学研究費補助金
113	前立腺ラテント癌から顕在癌までの癌浸潤マクロファージの解析	広川 佳史	大学院医学系研究科	1,690,000 円	補科学研究費補助金
114	小児スギ花粉症の舌下免疫療法と誘導性制御性T細胞およびIgG4による作用機序解明	湯田 厚司	大学院医学系研究科	1,820,000 円	補科学研究費補助金
115	上気道の難治病態における粘液分泌過多の機序の解明とその制御	竹内 万彦	大学院医学系研究科	1,560,000 円	補科学研究費補助金
116	難治性白血病におけるマイクロRNAを介した分子病態の解明及び新たな治療戦略の探索	小埜 良一	大学院医学系研究科	1,170,000 円	補科学研究費補助金
117	発生最初期の骨髄球/リンパ球共通前駆細胞の解析	山根 利之	大学院医学系研究科	1,560,000 円	補科学研究費補助金
118	癌間質、血清蛋白プロファイリングから検証した癌転移形成能誘導因子の同定と臨床応用	間山 裕二	大学院医学系研究科	1,170,000 円	補科学研究費補助金
119	二次性下肢リンパ浮腫患者への介入の現状と効果的介入方法の検討	種田 ゆかり	大学院医学系研究科	780,000 円	補科学研究費補助金
120	ERK2の恒常的活性化変異による病態発症:細胞早期老化を中心とした解析	杉村 和人	大学院医学系研究科	2,600,000 円	補科学研究費補助金
121	肺免疫染色を用いた死亡前における全身状態の病理組織学的評価法に関する研究	井上 裕匡	大学院医学系研究科	910,000 円	補科学研究費補助金
122	血液凝固制御因子とギャップ結合による血管内皮細胞の機能維持機構の解明	岡本 貴行	大学院医学系研究科	2,080,000 円	補科学研究費補助金
123	難治性リンパ腫の病態に関連する遺伝子群の解明と新規治療標的分子の同定	宮崎 香奈	大学院医学系研究科	2,730,000 円	補科学研究費補助金
124	抗原受容体改変T細胞による治療抵抗性消化器癌に対する新規細胞輸注療法	今井 奈緒子	大学院医学系研究科	2,470,000 円	補科学研究費補助金
125	臨床応用を目指した血液凝固関連因子による骨リモデリング制御機構の細胞生物学的研究	吉田 格之進	大学院医学系研究科	1,950,000 円	補科学研究費補助金
126	冠動脈インターベンションを受けた患者における生活習慣の自己管理状況と抑うつとの関連	岡本 実保(町本ミホ)	大学院医学系研究科	780,000 円	補科学研究費補助金
127	レトロウイルス発現系を用いた発癌関連miRNAの探索	野阪 哲哉	大学院医学系研究科	1,200,000 円	補科学研究費補助金
128	未破裂脳動脈瘤に対するテーラードステント治療法の開発	滝 和郎	大学院医学系研究科	900,000 円	補科学研究費補助金
129	中枢神経系機能性疾患発症前治療介入の有効性検証	岡田 元宏	大学院医学系研究科	1,400,000 円	補科学研究費補助金
130	神経堤と中胚葉を標識できるマウスを用いた歯髄及び骨髄幹細胞の起源と性状の解明	山崎 英俊	大学院医学系研究科	1,100,000 円	補科学研究費補助金
131	二光子レーザー顕微鏡を用いた壊死性腸炎モデルの作成とその病態・治療法の解明	小池 勇樹	大学院医学系研究科	1,001,000 円	補科学研究費補助金
132	悪性腫瘍患者からの臓器移植が成立し得ることを証明する	大澤 一郎	大学院医学系研究科	1,495,000 円	補科学研究費補助金
133	NOGマウスを用いたがん特異的ヒトT細胞の機能解析:CD8、CD4細胞相互作用	王 立楠	大学院医学系研究科	1,599,000 円	補科学研究費補助金

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
 2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
 3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No.	雑 誌 名 題	命 題	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
1	Breast Cancer, 2010 Oct 27 (Epub ahead of print)	Role of stromal myofibroblasts in invasive breast cancer: stromal expression of alpha-smooth muscle actin correlates with worse clinical outcome.	Masako Yamashita	乳腺外科
2	Br J Radiol, 2011 Mar;84:248-50	A case of lobular carcinoma in situ presenting as a solid mass.	Zhang X	乳腺外科
3	J Clin. Neurosci (平成22年5月)	Biomechanical study of the lumbar spine using a unilateral pedicle screw fixation system.	Kasai Y	Department of Spinal Surgery and Medical Engineering
4	Int Orthop (平成22年4月)	Clinical application of a handy intraoperative measurement device for lumbar segmental instability.	Kasai Y	Department of Spinal Surgery and Medical Engineering
5	J Ophthalmol. 2010;pii: 569215	Retinal Nerve Fiber Layer Decrease during Glycemic Control in Type 2 Diabetes.	Sugimoto M	眼科
6	Ophthalmic Res. 2011;46(1):13-8.	Distribution of D-aspartate-immunopositive cells in the ganglion cell layer of adult rat retina.	Sasoh M	眼科
7	Clin Ophthalmol. 2010 Apr 26;4:243-5.	Paraneoplastic retinopathy associated with retroperitoneal liposarcoma.	Kondo M	眼科
8	Proc Natl Acad Sci U S A. 2010 Dec 28;107(52):22671-6.	Negative regulation of ciliary length by ciliary male germ cell-associated kinase (Mak) is required for retinal photoreceptor survival.	Katoh K	眼科
9	Biological & Pharmaceutical Bulletin (2010年4月)	Risk factors contributing to the development of hypocalcemia after zoledronic acid administration in patients with bone metastases of solid tumor.	岩本卓也	薬剤部
10	Cancer Chemotherapy & Pharmacology 2010年5月電子 版)	Risk factors contributing to the development of carboplatin-related delayed hypersensitivity reactions in Japanese patients with gynecologic cancers.	杉本浩子	薬剤部
11	Pharmacotherapy (2010年7月)	Drug interaction between itraconazole and bortezomib: exacerbation of peripheral neuropathy and thrombocytopenia induced by bortezomib.	岩本卓也	薬剤部
12	Drug Metab Pharmacokinet. (2010年8月)	Elevated systemic elimination of cimetidine in rats with acute biliary obstruction: the role of renal organic cation transporter OCT2.	倉田朋彦	薬剤部
13	J Hepatobiliary Pancreat Sci. (2010年12月電子版)	Monitoring peripheral blood CD4+ adenosine triphosphate activity after living donor liver transplantation: impact of combination assays of immune function and CYP3A5 genotype.	水野修吾	肝胆膵外科
14	INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR MEDICINE (2010年9月)	Clinical significance of tumor markers in detection of recurrent hepatocellular carcinoma after radiofrequency ablation.	別府徹也	消化器・肝臓内科

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	命	発表者氏名	所属部門
15	INTERNATIONAL JOURNAL OF ONCOLOGY (2010年10月)	Functional cell surface expression of Toll-like receptor 9 promotes cell proliferation and survival in human hepatocellular carcinomas.		田中淳一朗	消化器・肝臓内科
16	Hepatology Research (2010年9月)	Restriction of calorie and iron intake results in reduction of visceral fat and serum alanine aminotransferase and ferritin levels in patients with		岩佐元雄	消化器・肝臓内科
17	MOL MED (2011年2月)	Identification of Treatment Efficacy-Related Host Factors in Chronic Hepatitis C by ProteinChip Serum		藤田尚己	消化器・肝臓内科
18	Clin J Gastroenterol (2011年3月)	A cute septic shock during pegylated-interferon and ribavirin therapy in a patient with chronic hepatitis C who underwent aortic graft replacement.		小林由直	保健管理センター
19	日本耳鼻咽喉科学会会報 (平成22年9月)	カード型嗅覚同定検査「Open Essence」の有用性		西田幸平	耳鼻咽喉・頭頸部外科
20	日本味と匂学会誌 (平成22年12月)	Narrow-band imaging(NBI)による味覚障害患者の舌乳頭観察		小林正佳	耳鼻咽喉・頭頸部外科
21	アレルギー (平成22年10月)	スギ花粉症に対する舌下免疫療法の治療年数による臨床効果の増強と治療終了後の継続効果		湯田厚司	耳鼻咽喉・頭頸部外科
22	東海花粉症研究会誌 (平成23年3月)	小児スギ花粉症に対する舌下免疫療法		湯田厚司	耳鼻咽喉・頭頸部外科
23	口咽喉 (平成23年3月)	Narrow-band imaging(NBI)を用いた舌乳頭の観察		小林正佳	耳鼻咽喉・頭頸部外科
24	心臓 42 Suppl2: 74-77, 2010	当院で経験したAEDによる救命後ICD移植術を行った15例の検討		藤井英太郎	循環器内科
25	心臓 42:906-907, 2010	静脈血栓塞栓症における血栓素因の検討のための臨床研究		山田典一	循環器内科
26	心臓 42:908-909, 2010	院外発症静脈血栓塞栓症の危険因子		中村真潮	総合内科
27	心臓 42:983, 2010	当院における多列検出器型CTを用いた肺梗塞の特徴に関する検討		山田典一	循環器内科
28	Transplantation 89:650-654, 2010	Prospective Study on the Outcome of Patients with Hepatocellular Carcinoma Registered for Living Donor Liver Transplantation:How Long Can They Wait?		katsuya Shiraki	消化器・肝臓内科
29	Int J Cardiol 138:e47-e50, 2010	Biventricular Pacing Worsened Dyssynchrony in Heart Failure Patient with Right-bundle branch Block.		Hiroshi Nakajima	循環器内科
30	Int J Cardiol 140:48-54, 2010	Conventional Therapy with an ACE Inhibitor Diminishes Left Ventricular Dyssynchrony during the Progression of Heart Failure.		Takashi Tanigawa	循環器内科
31	J Am Soc Echocardiogr 23:747-754, 2010	Left Ventricular Contraction-Relaxation Coupling in Normal, Hypertrophic, and Failing Myocardium Quantified by Speckle-Tracking Global Strain and Strain Rate Imaging.		Hiroshi Nakajima	循環器内科
32	Rheumatol Int. 2011 Mar	A tumor endoprosthesis is useful in elderly rheumatoid arthritis patient with acute intercondylar fracture of the distal femur.		Wakabayashi H	整形外科
33	Biochem Biophys Res Commun. 2011 Mar	TNF inhibitor suppresses bone metastasis in a breast cancer cell line.		Wakabayashi H	整形外科
34	Int J Clin Oncol. 2011 Mar	A novel hyperthermia treatment for bone metastases using magnetic materials.		Matsumine A	整形外科
35	J Surg Oncol. 2011 Mar	Clinical outcomes of the KYOCERA Physio Hinge Total Knee System Type III after the resection of a bone and soft tissue tumor of the distal part of the		Matsumine A	整形外科
36	Int J Sports Physiol Perform. 2010 Dec	Hypoxia increases muscle hypertrophy induced by resistance training		Sudo A	整形外科
37	Am J Sports Med. 2010 Dec	Functional recovery of the donor knee after autologous osteochondral transplantation for capitellar osteochondritis dissecans.		Sudo A	整形外科
38	J Orthop Surg. 2010 Dec	Percutaneous vertebroplasty for osteoporotic compression fractures using calcium phosphate		Sudo A	整形外科
39	Ann Rheum Dis. 2011 Feb	Meta-analysis of genome-wide association studies confirms a susceptibility locus for knee osteoarthritis on chromosome 7q22.		Sudo A	整形外科
40	J Rheumatol. 2011 Jan	Thrombin-cleaved osteopontin levels in synovial fluid correlate with disease severity of knee osteoarthritis.		Hasegawa M	整形外科
41	J Orthop Sci. 2010 Sep	Distribution and role of tenascin-C in human osteoarthritic cartilage.		Hasegawa M	整形外科
42	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2011 Jun	Minimally invasive total knee arthroplasty: comparison of jig-based technique versus computer navigation for clinical and alignment outcome.		Hasegawa M	整形外科
43	J Orthop Surg. 2010 Aug	Mortality after vertebral fractures in a Japanese population.		Sudo A	整形外科

## 2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
44	J Surg Oncol.2010 Sep	Clinical outcomes of minimally invasive surgery using acridine orange for musculoskeletal sarcomas around the forearm, compared with conventional limb salvage surgery after wide resection.	Matsubara T	整形外科
45	Biochem Biophys Res Commun.2010 Oct	The cleavage of N-cadherin is essential for chondrocyte differentiation.	Matsumine A	整形外科
46	Int Orthop 2010 Jun	Risk factors for the incidence and progression of radiographic osteoarthritis of the knee among	Hasegawa M	整形外科
47	Thromb Res.2010 Oct	Incidence and time course of asymptomatic deep vein thrombosis with fondaparinux in patients undergoing total joint arthroplasty.	Hasegawa M	整形外科
48	J Orthop Surg.2010 Apr	Tophaceous pseudogout in the knee joint mimicking a soft-tissue tumour: a case report.	kato H	整形外科
49	J Orthop Sci.2010 Apr	Ganglion cyst arising from the posterolateral capsule of the knee.	Sudo A	整形外科
50	J Orthop Sci.2010 Apr	Clinical and radiological results of calcium phosphate cement-assisted balloon osteoplasty for Colles' fractures in osteoporotic senile female patients.	Sudo A	整形外科
51	Clin Exp Nephrol(2010)14:431-435	Elevated serum levels of bromine do not always indicate pseudohyperchloremia	Hiroshi Matsuo	腎臓内科
52	Materials Science and Engineering C31(2011)158-165	Denatured-jacalin derivatives with selective recognition for O-linked glycosides(ST,t,Tn, and STn Type) on IgA1 hinge region	Shinsuke Nomura	腎臓内科
53	Anticancer Res 30 355-8(2010)	Expression and Role of Phosphodiesterase 5 in Human Oral Malignant Melanoma Cell Line	T.Murata	歯科口腔外科
54	Australian Dental Journal 55 200-202(2010)	A case of tongue carcinoma associated with chronic graft-versus-host disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	M.Inui	歯科口腔外科
55	Spec Care Dentist 30 33-34(2010)	Isogladine Maleate in the management of recurrent aphthous stomatitis: A pilot study.	M.Inui	歯科口腔外科
56	Journal of Maxillofacial and Oral Surgery 9 213-217(2010)	A case of oral multiple primary cancer including Spindle Cell Carcinoma.	H.Kato	歯科口腔外科
57	歯歯誌 31 744-748(2010)	長期経管栄養管理中の神経難病患者に対する口腔ケア一介入による効果.	加藤英治	歯科口腔外科
58	泌尿器外科 23 659-662,2010	肥満患者におけるミニマム創内視鏡下根治的腎摘除術(MIES-RN)における手技の工夫:創切開延長のrisk評価も含めて.	曾我倫久人	腎泌尿器外科
59	日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌 2 65-69,2010	ミニマム創内視鏡下根治的腎摘除術(MIES-RN)における切開創延長例の検討.	曾我倫久人	腎泌尿器外科
60	Renal Cell Crcinoma(RCC) Today Vol.2 11-14,2010	腎癌におけるラジオ波焼灼術(RFA)の役割.	曾我倫久人	腎泌尿器外科
61	Journal of medical genetics(2010. July)(impact Factor:7.037)	Multiple cutaneous squamous cell carcinomas in a patient with interferon gamma receptor 2 (IFN gamma R2) deficiency.	豊田秀美	小児科
62	Journal of immunology(2010.Dec)(IF:5.745)	Prediction of reactivity to noninherited maternal antigen in MHC-mismatched, minor histo compatibility antigen-matched stem cell transplantation in a mouse	平山雅浩	小児科
63	International journal of cardiology(2011.Jan)(IF:6.802)	Acute effect of sildenafil on hypoxemic patients(excluding those with Eisenmenger syndrome) with incurable congenital heart disease and disturbed pulmonary vasculature in the mid-term follow-up	三谷善英	小児科
64	cancer.2011 Feb 15;117(4):876;author reply 876-7. doi:10.1002/cncr.25549. Epub 2010 Oct 13.No abstract available.	Radiofrequency ablation as an adjunct to systemic chemotherapy for colorectal pulmonary metastases.	Yamakado K	IVR科
65	Int J Mol Med.2010 Sep;26(3):425-33.	Clinical significance of tumor markers in detection of recurrent hepatocellular carcinoma after radiofrequency ablation.	Yamakado K	IVR科
66	Jpn J Radiol.2010 Jul;28(6):460-8.Epub 2010 Jul 27.	Midterm results of radiofrequency ablation versus nephrectomy for T1a renal cell carcinoma.	Yamakado K	IVR科

## 2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
67	Radiology.2010 Apr;255(1):233-41	Optimal scan parameters for CT fluoroscopy in lung interventional radiologic procedures:relationship between radiation dose and image quality.	Yamakado K	IVR科
68	Cardiovasc Intervent Radiol.2010 Jun;33(3):657-9.Epub 2009 Nov 3.	A case report of 20 lung radiofrequency ablation sessions for 50 lung metastases from parathyroid carcinoma causing hyperparathyroidism.	Yamakado K	IVR科
69	Magn Reson Med 2010;63:1411-1411 IF 3.267	Single Breath Hold Multiple Slice DENSE MRI.	Sakuma H	放射線診断科
70	J Am Coll Cardiol 2010;56:983-991 IF 14.292	Assessment of Coronary Artery Disease using Magnetic Resonance Coronary Angiography:A National Multicenter Trial.	kitagawa K	放射線診断科
71	Magn Reson Imaging.2011;29:202-208 IF 2.042	In vivo SNR in DENSE MRI; temporal and regional effects of field strength,receiver coil sensitivity and flip angle strategies.	Sakuma H	放射線診断科
72	Radiology.2011;259:384-392 IF 6.066	Diagnostic Accuracy of 1.5T Non-Contrast Whole-Heart Coronary Magnetic Resonance Angiography Acquired with 32-Channel Cardiac Coils:Initial Single-Center Experience.	Nagata M	放射線診断科
73	Exp Dermatol.2011 Feb;20(2):157-8.	Propionibacterium acnes vaccination induces regulatory T cells and Th1 immune responses and improves mouse atopic dermatitis.	kitagawa K	皮膚科
74	Allergol Int.2011 Mar;60(1):45-51.	SLIT improves cedar pollinosis by restoring IL-10 production from Tr1 and Monocytes~IL-10 productivity is critical for becoming allergic~.	Yamanaka K	皮膚科
75	J Dermatol.2010 Oct;37(10):922-5.	Epidermal cyst with pilomatricoma(follicular hybrid cyst):immunohistochemical study with epithelial keratins and filaggrin.	Omoto Y	皮膚科
76	J Dermatol.2010 Aug;37(8):773-5.	Possible case for false-positive reaction in serum 5-S-cysteinyldopa levels in a patient with malignant melanoma by ingestion of Agaricus blazei Murrill	Yamanaka K	皮膚科
77	J Dermatol Sci.2010 Aug;59(2):129-35.	Granzyme B is a novel interleukin-18 converting enzyme.	Yamanaka K	皮膚科
78	J Med Genet.2010 Sep;47(9):631-4.	Multiple cutaneous squamous cell carcinomas in a patient with interferon gamma receptor 2 (IFN gamma R2) deficiency.	Mizutani H	皮膚科
79	Int J Dermatol.2010 Apr;49(4):402-5.	Immunohistochemical study of cytokeratin expression in nevus sebaceous.	Yamanaka K	皮膚科
80	Br J Dermatol.2010 Jun;162(6):1206-15.	1,24-Dihydroxyvitamin D3(tacalcitol) prevents skin T-cell infiltration.	Yamanaka K	皮膚科
81	日本皮膚科学会雑誌(0021-499X)120巻9号 Page1893-1900(2010.08)	お好み焼き粉に繁殖したダニによる即時性アレルギーの2例 Inhibition immunoblot法による原因抗原の検討と粉の種類によるダニ数およびダニ抗原増加の検討	水谷 仁	皮膚科
82	臨床皮膚科(0021-4973)64巻9号 Page709-712(2010.08)	ウイルス関連血球貧血症候群(VAHS)を合併したと考えられた重症水痘の1例	日高 良	皮膚科
83	Thrombosis Research 125:529-532;2010	Analysis three abnormal Protein S genes in a patient with pulmonary embolism.	Ikejiri M	中央検査部
84	Int J Hematol 92:302-305;2010	The association of protein S Tokushima-KI96E with a risk of deep vein thrombosis.	Ikejiri M	中央検査部
85	International Journal of Molecular Medicine 27:255-261;2010	Personalized treatment in the eradication therapy for Helicobacter pylori.	Nakatani K	中央検査部
86	日本臨床68(8)112-116;2010	遺伝子診断とはー臨床遺伝子診断学研究の進歩と展	登 勉	中央検査部
87	臨床検査 54(10)1115-1122;2010	ファーマコゲノミクス検査の現状と課題	登 勉	中央検査部
88	臨床検査 54(13)1607-1613;2010	ファーマコゲノミクス検査によるオーダーメイド医療の動向	中谷 中	中央検査部
89	Journal of Clinical Microbiology (2010 June)	Diagnostic value of PCR Analysis of Bacteria and Fungi from Blood in Empiric-Therapy-Resistant Febrile Neutropenia.	Akiko Nakamura	中央検査部
90	Journal of Thoracic Oncology 2010.4(5(4):576-8.)	Resection of mucinous adenocarcinoma presenting with intractable bronchorrhea.	Motoshi Takao	呼吸器外科
91	Cancer 2010.10 (Article first published online:13 OCT 2010)	Radiofrequency ablation as adjunct to systemic chemotherapy for colorectal pulmonary metastases.	Motoshi Takao	呼吸器外科
92	肺癌 2010. 6( 50: 280-286.)	肺癌完全切除例に対する術後化学療法ー診療ガイドライン改訂後の実態調査ー	高尾仁二	呼吸器外科
93	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2010.11(140(5):e73-4.)	Simple preoperative management for cold agglutinins before cardiac surgery.	Shinji Kanemitsu	心臓血管外科
94	Surgery Today 2010.5 (40(5):433-9.)	Primary stent placement for iliac artery chronic total occlusions.	Yuka Kondo	心臓血管外科

## 2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
95	Journal of Experimental Medicine.2011(14;208(3):561-75.)	Eph-B4 prevents venous adaptive remodeling in the adult arterial environment.	Akihito Muto	心臓血管外科
96	Diabetologia 2010.5	Transgenic mice overproducing human thioredoxin-1,an antioxidative and anti-apoptotic protein,prevents diabetic embryopathy.	Yuki. Kamimoto	産科婦人科
97	J.Obstet.Gynaecol. Res 2010.8	Group A streptococcal toxic shock syndrome with extremely aggressive course in the third trimester.	Takashi Sugiyama	産科婦人科
98	Endocrine Journal 2010	Maternal nutrition and long-term consequences of the offspring.	Norimasa Sagawa	産科婦人科
99	Pediatr Surg Int (2011/2)	HsMAD2 mRNA expression may be a predictor of sensitivity to paclitaxel and survival in neuroblastoma.	大竹耕平	小児科
100	Pediatr Surg Int	Poor catch-up growth after proctocolectomy in pediatric patients with ulcerative colitis receiving prolonged steroid therapy.	内田恵一	小児科
101	Br J Cancer (2010/9)	Loss of tumoral expression of soluble IL-6 receptor is associated with disease progression in colorectal	奥川喜永	消化管外科
102	Oncol Rep (2010/10)	Possibility of paclitaxel as an alternative radiosensitizer to 5-fluorouracil for colon cancer.	廣純一郎	消化管外科
103	Oncol Rep (2010/8)	Immunohistochemical features of CD133 expression: association with resistance to chemoradiotherapy.	田中光司	消化管外科
104	Ann Surg Oncol (2010/11)	Clinical significance of human kalikrein7 gene expression in colorectal cancer.	井上靖浩	消化管外科
105	Surg Today (2010/7)	Resection of rectal cancer: a historical review.	井上靖浩	消化管外科
106	Surg Today (2010/4)	Implementing a standard protocol to decrease the incidence of surgical site infections in rectal cancer surgery.	井上靖浩	消化管外科
107	Ann Surg Oncol (2010/8)	Stromal CXCR4 and CXCL12 expression is associated with distant recurrence and poor prognosis in rectal cancer after chemoradiotherapy.	間山裕二	消化管外科
108	Clin Oncol (R Coll Radiol)	Gene expression profiles of epidermal growth factor receptor, vascular endothelial growth factor and hypoxia-inducible factor-1 with special reference to local responsiveness to neoadjuvant chemoradiotherapy and disease recurrence after rectal	間山裕二	消化管外科
109	Ann Surg Oncol (2010/5)	KAP1 is associated with peritoneal carcinomatosis in gastric cancer.	横江 毅	消化管外科
110	J Gastroenterol (2011/2)	DPEP1 expressed in the early stages of colon carcinogenesis affects cancer cell invasiveness.	間山裕二	消化管外科
111	Radiology.2010 Apr;255(1):233-41.	Optimal scan parameters for CT fluoroscopy in lung interventional radiologic procedures:relationship between radiation dose and image quality.	Yamao Y	中央放射線部
112	日本磁気共鳴医学会雑誌 2010年5月15日発行 VOL.30 No.2 2010	3T 装置を用いた3D T1 強調画像による頸動脈プラークの評価・連続130 症例での検討	井上勝博	中央放射線部
113	Stroke (2011.3)	Novel dynamic four-dimensional CT angiography revealing 2-type motions of cerebral arteries.	梅田靖之	脳神経外科
114	J Biomed Mater Res B Appl Biomater (2010.10)	Simple immersion of filter devices into an urokinase solution prevents fibrin net formation during carotid artery stenting.	滝 和郎	脳神経外科
115	Neurol Med Chir (2010.9)	Memorial review celebrating the 50th year of publication of NMC-neuroendovascular therapy.	滝 和郎	脳神経外科
116	Turk Neurosurg (2010.4)	Endovascular management of vertebral artery dissecting aneurysms:review of 25 patients.	滝 和郎	脳神経外科
117	日本臨床 (2010.12)	先天性脳腫瘍の病理	松原年生	脳神経外科
118	脳神経外科ジャーナル (2010.10)	動眼神経麻痺で発症した内頸動脈後交通動脈分岐部動脈瘤における術中所見とCFD解析	滝 和郎	脳神経外科
119	画像診断 (2010.9)	出血性脳血管障害の臨床	鈴木秀謙	脳神経外科
120	Exp Mol Pathol 2010.7	RhoB enhances migration and MMP1 expression of prostate cancer DU145.	白石泰三	病理部
121	J Urol 2010.9	Discrepancy between local and central pathological review of radical prostatectomy specimens.	白石泰三	病理部
122	臨床神経学 2010.9	脳アミロイドアンギオパチーによる多発性皮質微少梗塞が認知症の進行に影響したと考えられる1剖検例	白石泰三	病理部
123	病理と臨床 2010.12	悪性腹膜中皮腫の一例	福留寿生	病理部
124	検査と技術 2010.12	前立腺癌とp63	米田 練	病理部
125	Am J Pathol 2011.2	Tenascin-C Induces Epithelial-Mesenchymal Transition-like Change Accompanied by SRC Activation and FAK Phosphorylation in Human Breast	白石泰三	病理部

## 2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
126	World J Gastrointest Surg.2010;2(8):260-4.	A standardized technique for safe pancreaticojejunostomy:Pair-Watch suturing	Azumi Y	医療情報部
127	Int Immunopharmacol.2010;10(8):995-9.	Chemopreventive anti-cancer agent acyclic retinoid suppresses allogeneic immune responses in rats.	Ohsawa I	肝胆膵外科

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



(様式第12)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 竹田 寛
管理担当者氏名	中央放射線部長 佐久間 肇      薬剤部長      奥田 真弘 医療安全・感染管理部長 富本 秀和 医療福祉支援センター長 内田 恵一 事務副部長(兼)総務課長 高倉 啓一 事務部医療サービス課長 田中 章

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書	各診療科	カルテは、 外来:一患者各診療科カルテ 入院:一患者共通カルテ方式をとっている。 カルテは、 ①外来患者は外来カルテ庫 ②入院患者は入院中は各科病棟、退院後は病歴室に保管。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者を明らかにする帳簿	総務課
	高度医療の提供の実績	医療サービス課
	高度医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課
	高度医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課、 薬剤部
	規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第1項第1号に掲げる体制 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療サービス課、安全管理・感染管理部
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	総務課、医療サービス課、医療安全・感染管理部
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総務課、医療サービス課、医療安全・感染管理部
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課、医療安全・感染管理部
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療サービス課、医療安全・感染管理部
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療サービス課、医療安全・感染管理部	
当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課、医療福祉支援センター	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況		
	院内感染のための指針の策定状況	総務課	
	院内感染のための委員会の開催状況	総務課	
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	総務課	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課	
	従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務課 薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課	
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務課 臨床工学部	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課 臨床工学部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 竹田 寛
閲覧担当者氏名	事務副部長(兼)総務課長 高倉 啓一
閲覧の求めに応じる場所	病態医科学研究棟2階 大会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	74.5%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	10,611人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,052人	
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	502人	
	D : 初診の患者の数	17,665人	

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

## 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療に係る安全管理のための指針(別添資料 1)</li> <li>○安全管理に係る組織図(別添資料 2)</li> <li>○医療問題対策委員会内規(別添資料 3)</li> <li>○安全管理部内規(別添資料 4)</li> <li>○重大インシデント発生時の院内連絡体制(別添資料 5)</li> <li>○医療の質・倫理検討委員会内規(別添資料 6)</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 38 回
<p>・活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療問題対策委員会 (年10回) 医療法制に関する事項、医療事故の予防に関する事項、医療事故発生時の対策に関する事項、医療紛争の処理に関する事項及び医療訴訟に関する事項の審議を行う。</li> <li>○安全管理部会議 (年 11回) インシデントレポートの収集と管理、報告された事故の原因や状況の分析、原因分析の結果を踏まえて事故発生の防止策と事故発生後の対応策を講じ、必要な情報を現場のスタッフにフィードバックする。 また、医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること、医療事故防止にかかわる業務改善の提言・指導に関すること、安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること、医療事故防止対策マニュアルに関すること、ヒヤリハットニュースの発行に関すること、リスクマネージャー会議に関すること。</li> <li>○リスクマネージャー会議 (年 6回) 医療問題対策委員会及び安全管理室会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底させる。</li> <li>○医療の質・倫理検討委員会 (年 11回) 死亡例及び重症合併症例の検討、先端医療、終末期医療、診療拒否、移植医療、その他の倫理的問題について審議する。</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>従来有りの医療安全に関する意識向上を図っている。 (全職員対象とは別に新規採用者のみを対象とした医療安全研修会及び全職員を対象とした医療事故被害者による講演等)</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ヒヤリハットニュースを発行(月1回及び必要に応じて随時)し、リスクマネージャー会議を開催(年6回)することにより、リスクマネージャーを通じて、インシデントレポートから積極的に収集した情報並びに医療問題対策委員会、医療の質・倫理検討委員会及び安全管理部会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。</li> <li>○各医療現場のリスクマネージャーにより、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について独自に検討及び提言を行う。</li> <li>○各医療現場のリスクマネージャーにより、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。</li> </ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(2名) <input type="checkbox"/> 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(2名) <input type="checkbox"/> 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・所属職員：専任( 3 )名 兼任( 14 )名</p> <p>・活動の主な内容</p> <p>医療安全・感染管理部(危機管理委員会として平成12年6月12日設置、平成13年6月19日安全管理委員会に委員会名変更、平成14年4月1日同委員会を廃止し、安全管理室を設置、平成19年1月1日安全管理部に改組、平成22年4月1日同部を廃止し、感染制御部と合併し、医療安全・感染管理部に改組) 病院内における医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、安全且つ適切な医療体制を確立する。</p>	
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

## 院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無								
<p>・指針の主な内容</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</td> <td>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</td> </tr> <tr> <td>3. 職員研修に関する基本方針</td> <td>4. 発生状況の報告に関する基本方針</td> </tr> <tr> <td>5. 感染発生対応に関する基本方針</td> <td>6. 指針の閲覧に関する基本方針</td> </tr> <tr> <td>7. その他の必要な基本方針</td> <td></td> </tr> </table>		1. 院内感染対策に関する基本的な考え方	2. 委員会等の組織に関する基本的事項	3. 職員研修に関する基本方針	4. 発生状況の報告に関する基本方針	5. 感染発生対応に関する基本方針	6. 指針の閲覧に関する基本方針	7. その他の必要な基本方針	
1. 院内感染対策に関する基本的な考え方	2. 委員会等の組織に関する基本的事項								
3. 職員研修に関する基本方針	4. 発生状況の報告に関する基本方針								
5. 感染発生対応に関する基本方針	6. 指針の閲覧に関する基本方針								
7. その他の必要な基本方針									
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 11 回								
<p>・活動の主な内容</p> <p>1. 院内感染の実態の把握, 薬剤耐性の動向その他院内感染のための調査, 研究を行う。</p> <p>2. 感染症患者及び健康保菌者等の取扱い, 滅菌及び消毒, 清潔区域及び医療材料の清潔保持その他院内感染防止のための予防対策を行う。</p> <p>3. 院内感染防止についての指針の作成及び職員の教育, 指導を行う。</p>									
③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	年 2 回								
<p>・研修の主な内容</p> <p>従業者の感染管理に関する知識向上を図っている。(院内感染対策、職員手帳、HIV感染症 等)</p>									
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況									
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>地域の感染対策強化を図るために, 感染対策セミナーを行っている。(月1回程度)</p>									

## 医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 ・活動の主な内容 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書について 麻薬の取扱いについて	年 2 回 (同一内容で複数回実施)
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 ・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項(麻薬等の管理方法等) 3. 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 他施設(病院等、薬局等)との関係に関する事項	年 1 回
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 【収集方法】 医薬品に係る添付文書等の収集、メーカー等から収集、インターネット、文献等からの収集 【周知方法等】 薬剤部発行の院内医薬品情報誌に掲載し周知、オンライン医薬品集に「お知らせ」として掲載し周知、薬剤部ホームページへの掲載、必要に応じて院内メール又は文書等の通知にて周知、病棟担当薬剤師がカンファレンス等にて説明し周知 【改善方法等】 業務実施状況を確認し、必要に応じて手順書の改定を行う 院内で発生した副作用を収集する体制の整備	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 ・活動の主な内容 1. 有効性、安全性に関する事項 2. 使用方法に関する事項 3. 保守点検に関する事項 4. 不具合が発生した場合の対応に関する事項 5. 使用に関して特に法令上遵守すべき事項	年 1 回
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 ・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・保守点検の主な内容 1. メーカー提供の点検マニュアル及びメーカー指示に従い実施 2. 日常点検を実施し、異常があればメーカー点検・修理	年 回
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 1. 装置毎に添付文書・保守点検マニュアル及び安全性情報を冊子として配布 2. 管理、機器に関わる者に関してはWG等を設置し周知徹底を行う 3. 医薬品医療機器総合機構への病院ホームページ及びME室ホームページからのリンク 4. ME室ホームページからのマニュアル等の閲覧システム 5. 年4回発行のME室新聞及び看護師と連携した医療機器中央管理委員会(年6回開催)にて周知	

## 三重大学医学部附属病院医療に係る安全管理のための指針

### 1) 安全管理に関する基本的な考え方

安心できる医療環境のもとで良質で高度な医療を適切に提供することは三重大学医学部附属病院の理念であり、その根幹をなすものは「安全性」の確保である。未然に事故を防止することは医療機関の責務であり、特定機能病院には一般病院以上に安全管理体制の整備・充実が求められている。

このために、安全管理に関する院内の責任体制を明確にし、「良質で高度な医療の提供」に際して求められる安全確保のための指針を制定する。

### 2) 安全管理のための委員会、その他医療機関内の組織に関する基本的事項

1. 医療に係る安全管理体制の最高決定機関として安全管理に関わる部門の責任者等で構成する三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会（以下「医療問題対策委員会」という。）を置き、病院長を委員長とし委員で構成する委員会を月1回以上開催する。

医療問題対策委員会に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会内規に定める。

2. 安全管理推進の確保のため、ゼネラルリスクマネージャー及びその他各部門の安全管理責任者等で構成する三重大学医学部附属病院安全管理部（以下「安全管理部」という。）を置く。部員で構成する安全管理部会議を月2回以上開催する。

安全管理部に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院安全管理部内規に定める。

3. 医療に係る安全管理を専任で行う者としてゼネラルリスクマネージャーを置く。

ゼネラルリスクマネージャーの業務等については、三重大学医学部附属病院安全管理部内規に定める。

4. 医療現場での事故防止、安全管理の中心的な役割を担う者として、院内各部門にリスクマネージャーを置く。

5. 医療の現場で具体的な安全対策を推進し、安全性の高い医療を提供するために安全管理部の下にリスクマネージャー会議を定期的に関催する。

リスクマネージャー会議に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院安全管理部内規に定める。

6. 医薬品の安全使用のための責任者として、医薬品安全管理責任者を配置する。

7. 医療機器の安全使用のための責任者として、医療機器安全管理責任者を配置する。

8. その他本院における医療に係る安全管理体制に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院安全管理部内規に定める。

### 3) 安全管理のための職員研修に関する基本方針

1. 医療の安全管理のための職員研修（以下「研修」という。）は全職員を対象として年2回以上開催する。必要に応じ医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について職員に周知徹底を行うことで個々の職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図る。

2. 研修参加者の学習達成の評価とともに具体的・現実的な目標を定め、目標達成の観点から評価する。

3. 研修の実施内容や参加状況を記録に残し、それらの記録の積み重ねから研修の質的充実を図る。

4. その他研修に関し必要な事項は、安全管理部で定める。



#### 4) 医療機関内における事故報告書等の医療に係る安全確保のための改善策に関する基本方針

安全管理部は、あらかじめ定められた手順により報告されたインシデントや医療事故及び他機関での医療の安全管理に関する事例の収集・分析に基づき、医療の安全管理の問題点を把握し病院全体の医療の安全管理や改善策の具体的な実践を指導監督するとともに、その実施状況を評価する。

#### 5) 医療事故等発生への対応に関する基本方針

1. 本院において医療事故が発生した場合、当事者は必要と考えられる医療上の最善の処置を講じ、患者様及び御家族等に誠実で適切な対応をするとともに、あらかじめ定められた手順により速やかに病院長に報告しなければならない。
2. 安全管理部会議で医療事故と判定された場合の報告は、診療録や看護記録に基づき作成するものとする。
3. 医療事故等発生時の報告・対応に関し必要な事項は別に定める。

#### 6) 患者等に対する当該方針の閲覧に関する基本方針

患者等が指針の閲覧を希望する場合は、閲覧に供する。

#### 7) 患者からの相談への対応に関する指針

患者等から苦情、相談に適切に応じる体制を確保するため三重大学医学部附属病院 医療福祉支援センター（以下「支援センター」という。）を設置し、その活動を本院の安全対策等の見直しに活用するものとする。支援センターの活動の趣旨、設置場所、担当者及びその責任者、対応時間等については、院内に明示し周知を図る。

その他、支援センターの設置に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター規程に定める。

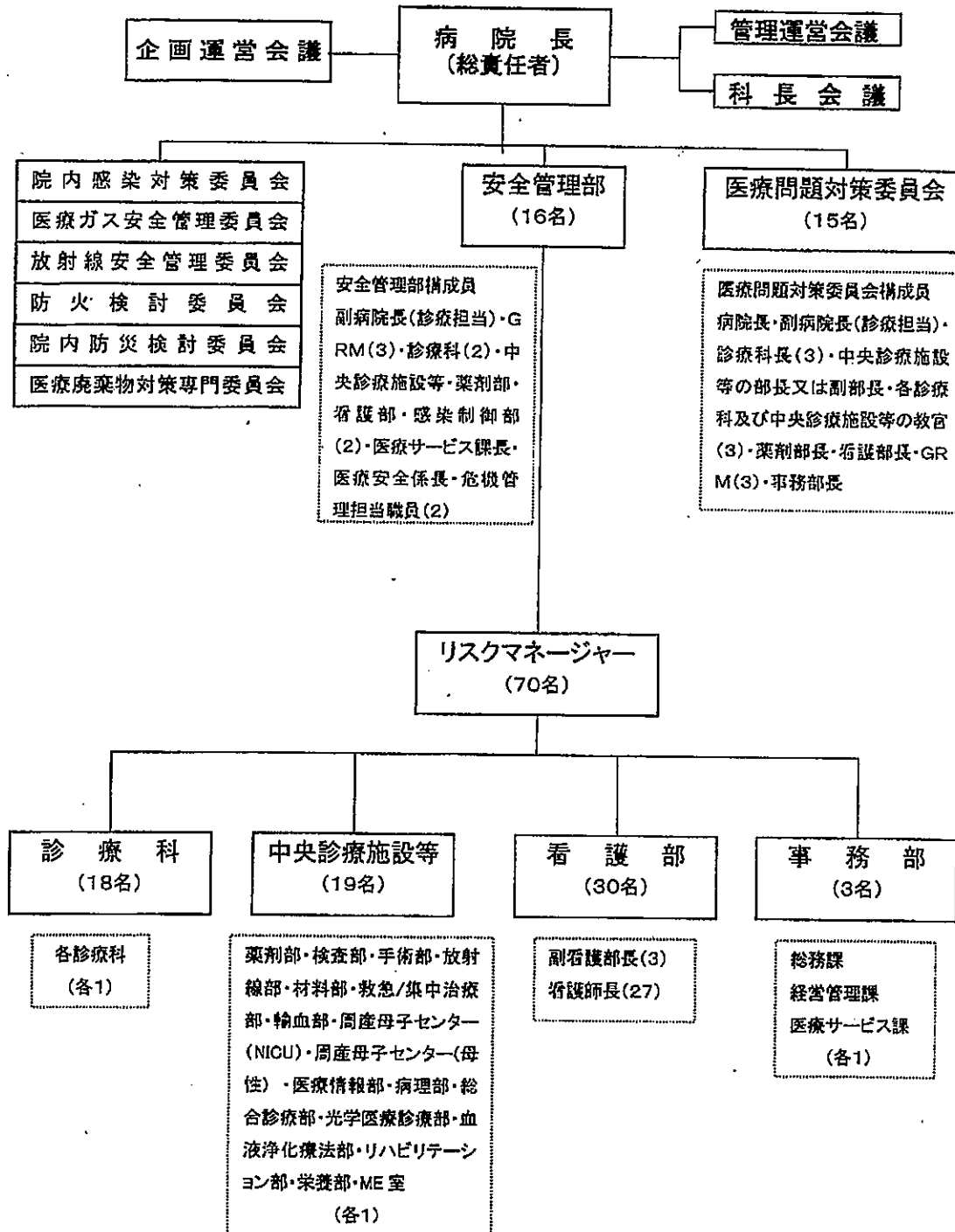
#### 8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針

1. 安全管理部は各診療科等に共通するリスクマネジメントマニュアル（以下「マニュアル」という。）を、また、各診療科等はそれぞれの部門に特化したマニュアルを作成し、関係職員に周知して医療事故等の防止を図るものとする。作成したマニュアルは常に見直しを行い随時改善するものとする。
2. 医療の安全に関する広報紙の発行等により医療従事者に速やかに医療の安全に関する情報を提供する。
3. 医療従事者の医療安全に関する意識向上を図るため、医療事故防止のためのポスターや標語を募集し、これらを院内に掲示することにより医療安全に関する患者等の理解の促進を図る。

2004年2月制定  
2007年10月改訂  
(医療問題対策委員会)

# 安全管理に係る組織図

(リスクマネージャーの配置状況等)



\*三重大学医学部附属病院安全管理部及び医療問題対策委員会の内規は  
【巻末附(1)及び(2)参照】

三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会内規

第1条 三重大学医学部附属病院（以下「病院」という。）は病院における医療事故の予防及び発生時の対応並びに医事紛争の処理に関し、常時、適切、かつ十分な行為を遂行していなければならない。

第2条 病院に医療問題対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 病院長
- 二 副病院長（診療・病院機能評価担当）
- 三 診療科長のうちから 3名
- 四 中央診療施設等の部長又は副部長のうちから 1名
- 五 各診療科及び中央診療施設等の大学教員から推薦された者 3名
- 六 薬剤部長
- 七 看護部長
- 八 ゼネラルリスクマネージャー
- 九 事務部長
- 十 その他病院長が必要と認めた者

2 前項第3号、第4号及び第5号の委員は、病院長が任命する。

3 第1項第3号、第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 医事法制に関する事項
- 二 医療事故の予防に関する事項
- 三 医療事故発生時の対策に関する事項
- 四 医事紛争の処理に関する事項
- 五 医療訴訟に関する事項
- 六 その他必要と認めた事項

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

第7条 委員会は、必要に応じて特別委員会を設置することができる。特別委員会の構成等については、その都度委員会において定める。

第8条 委員会の庶務は、病院事務部医療サービス課において行う。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年4月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

## 三重大学医学部附属病院安全管理部規程

第1条 この規程は、三重大学医学部附属病院規程第15条第6項の規定に基づき、三重大学医学部附属病院安全管理部（以下「安全管理部」という。）の組織及び業務について必要な事項を定める。

（目的）

第2条 安全管理部は、高度医療を提供する大学附属病院に求められている医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、病院長のもとに強い実行力を発揮し、安全かつ適切な医療体制を確立することを目的とする。

（業務）

第3条 安全管理部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 「ヒヤリ・ハット報告書」の収集・調査・防止対策及び防止対策の周知徹底に関すること。
- 二 医療事故防止・安全管理に係わる病院内の巡視・点検・評価に関すること。
- 三 医療事故防止・安全管理に係わる業務改善の提言・指導に関すること。
- 四 安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること。
- 五 医療事故防止対策マニュアルに関すること。
- 六 リスクマネージャー会議に関すること。
- 七 その他医療の安全管理に関すること。

（職員）

第4条 安全管理部に、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 部長
- 二 副部長
- 三 ゼネラルリスクマネージャー 2名
- 四 感染制御部の副部長及び看護師長
- 五 診療科から推薦された者 1名
- 六 中央診療施設等から推薦された者（医療情報管理部及び感染制御部を除く） 2名
- 七 医療情報管理部から推薦された者 1名
- 八 薬剤部から推薦された者 1名
- 九 看護部から推薦された者 1名
- 十 医療サービス課長
- 十一 事務系の職員 若干名
- 十二 その他病院長が必要と認めた者 若干名

（任期）

第5条 前条第5号から第9号及び第12条の職員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、職員に欠員が生じた場合の補欠の職員の任期は、前任者の残任期間とする。

（ゼネラルリスクマネージャー）

第6条 ゼネラルリスクマネージャーは、医師及び看護師長及び薬剤師をもって充てる。

2 ゼネラルリスクマネージャーは、安全管理部専任とする。

(リスクマネージャー会議)

第7条 安全管理部のもとにリスクマネージャー会議を置く。

2 リスクマネージャー会議は、部長が招集し、その議長となる。

3 リスクマネージャー会議は、ゼネラルリスクマネージャー及び次のリスクマネージャーをもって構成する。

一 各診療科から推薦された者 各1名

二 薬剤部、中央検査部、中央手術部、臨床麻酔部、中央放射線部、中央材料部、救急部、輸血部、周産母子センター(母性)、周産母子センター(NICU)、集中治療部、医療情報管理部、病理部、総合診療部、光学医療診療部、血液浄化療法部、リハビリテーション部、栄養管理部及び臨床工学部から推薦された者 各1名

三 副看護部長

四 看護師長

五 総務課、経営管理課及び医療サービス課より 各1名

4 リスクマネージャーは、次の各号に掲げる業務を行う。

一 「ヒヤリ・ハット報告」の積極的な収集並びに医療問題対策委員会及び安全管理部において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。

二 各医療現場において、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について、独自に検討及び提言する。

三 各医療現場において、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。

四 その他医療事故の防止に関すること。

5 第3項に規定するリスクマネージャーは、病院長が任命する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、安全管理部に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1. この規程は、平成19年1月1日から施行する。

2. 三重大学医学部附属病院安全管理室内規(平成16年4月1日制定)は廃止する。

3. この規程の施行の際現に廃止前の三重大学医学部附属病院安全管理室内規(平成16年4月1日制定)第4条第3号から第8号までの職員である者は、この規程の第4条第4号から第9号までの職員とみなし、その任期は、第5条の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年5月2日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年12月5日から施行し、平成19年11月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成20年8月1日から施行する。

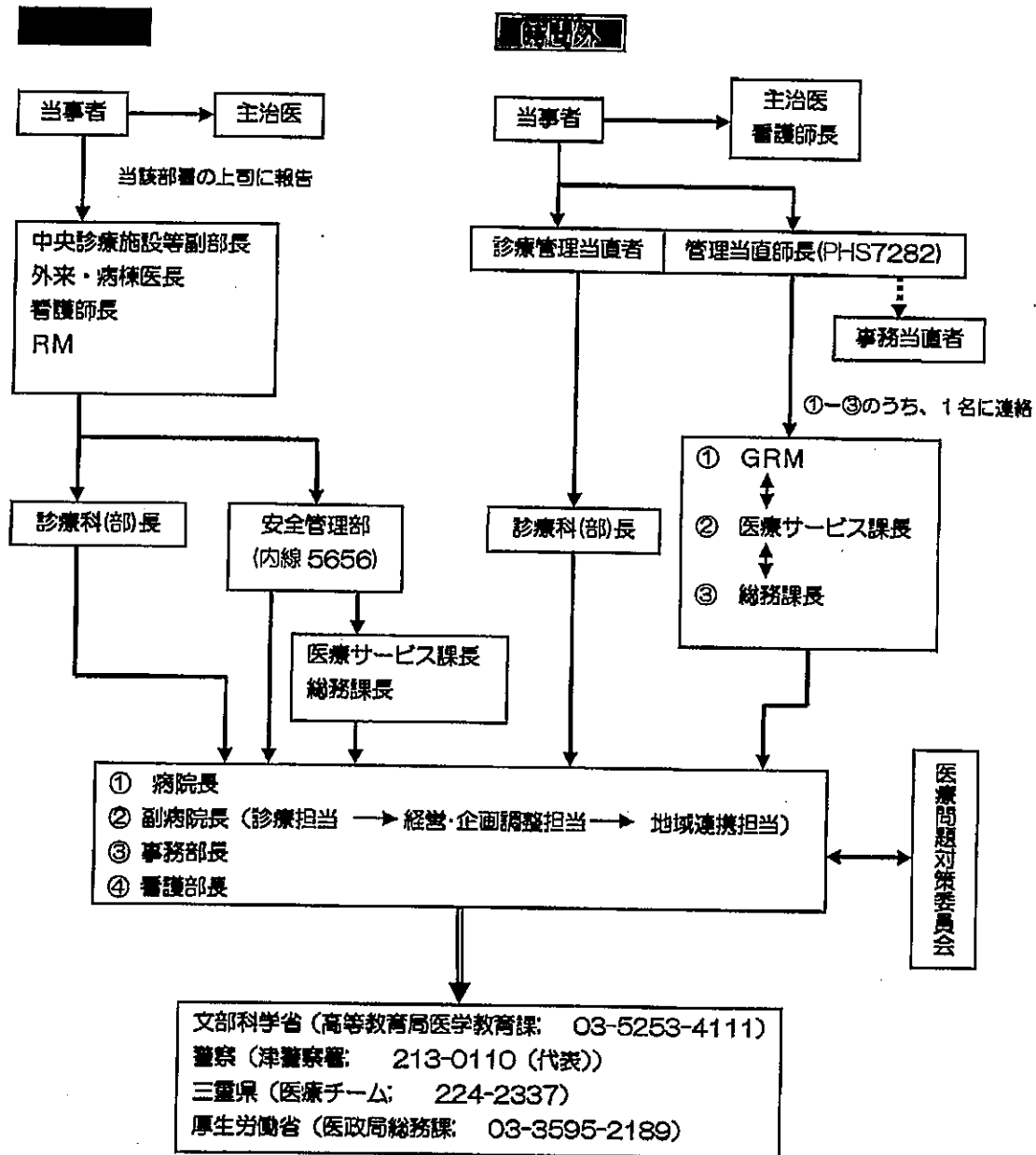
附 則

この規程は、平成21年1月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

重大インシデントが発生した場合は患者様への対応を最優先し、下記の連絡体制により、口頭で直ちに報告すること。ヒヤリ・ハットレポートは現場が落ち着いてからの提出でよい。



外部への連絡・報告については次項参照のこと。

事務当直への連絡内容は管理当直師長日誌の記載事項とする。

## 三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会規程

## (設置)

第1条 三重大学医学部附属病院に、三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 死亡例及び重症合併症例の検討等診療の質に関する事。
- 二 先端医療、終末期医療及び治療拒否における倫理的問題に関する事。
- 三 移植医療における倫理的問題に関する事。
- 四 その他診療における倫理的問題に関する事。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 病院長
  - 二 副病院長
  - 三 病理部長
  - 四 薬剤部長
  - 五 看護部長
  - 六 副看護部長 1名
  - 七 診療科（精神科神経科を除く。）の常勤医師 2名
  - 八 精神科神経科及び臨床麻酔部の常勤医師 各1名
  - 九 安全管理部のゼネラルリスクマネージャー
  - 十 医療福祉支援センターの医療ソーシャルワーカー
  - 十一 三重大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会の委員長
  - 十二 事務部長
  - 十三 医療サービス課長
  - 十四 倫理・法律分野の有識者 若干名
  - 十五 その他委員会が必要と認めた者
- 2 前項第14号の委員は、学外者又は三重大学大学院医学系研究科、医学部及び医学部附属病院 以外の部局に属する者とする。
- 3 第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員は、病院長が任命又は委嘱する。

## (任期)

第4条 前条第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長及び開催)

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
- 4 委員会は、原則として毎月1回開催する。ただし、委員長が必要と認めたときは、臨時に委員会を招集することができる。

## (申請手続)

第6条 第2条各2号から第4号に掲げる事項の審査を希望する者（以下「申請者」と



いう。)は、倫理審査申請書に必要事項を記入し、関係書類を添えて、所属の診療科長又は中央診療施設等の部長(以下「所属長」という。)を経て病院長に提出しなければならない。

(会議)

第7条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。ただし、特に重要な事項については、3分の2以上の出席を必要とする。

2 委員会の議事は、出席委員全員の合意によるものとする。

3 第1項及び前項の規定にかかわらず、委員が審査対象となる事項の申請者又は所属長であるときは、当該事項に係る審査に参加することができない。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(審査結果の通知)

第9条 病院長は審査結果を審査結果通知書により申請者に通知するものとする。

(実施状況の報告)

第10条 申請者は、前条の通知に基づき実施した内容について、実施状況報告書(別紙様式3)により所属長を経て病院長に報告しなければならない。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、医療サービス課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成18年10月4日から施行する。

2 この規程の施行後最初に任命又は委嘱される第3条第1項第7号、第13号及び第14号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成19年1月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成19年5月2日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

2 この規程施行の際現に改正前の第3条第1項第7号の委員である者は、この規程の第3条第1項第7号及び第8号の委員とみなし、その任期は、第4条の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

附 則

この規程は、平成21年4月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。